

4月9日（月）入学式式辞

「4つの眼」

式辞

今年もまた、ここあやめが丘に希望の春が巡ってきました。71名の新入生の皆さん、入学おめでとう。今日から皆さんは口加高校の生徒です。初めてのことには不安や緊張はつきものですが、どうか大いなる期待と志を胸に、高校生としての第一歩を力強く踏み出してください。

我が口加高校は、1902年（明治35年）私立口之津女子手芸学校としてスタートし、今年創立116年目を迎える県内屈指の伝統校です。これまで2万人を越える先輩方が、この学び舎で学び、先生方や友と語り、それぞれの時代の風を受けながら、青春の日々を過ごしてこられました。私たちが生きている今の時代は、激動とか、予測不能とか先行き不透明といったことばで形容されています。しかし、どんな時代が変わろうとも、変わることなく口加高校の先輩方が目指すべき指針として大切にしてきた校訓があります。それは、「豊かなる情感」「透徹せる知性」、そして「強靱なる生命力」です。この校訓に掲げたことばが皆さん自身のものとなり、また、自らの手でたくましく未来を切り開く人間へと成長するために、これからお話しする「4つの眼」を持って高校生活を送ってください。

まず一つ目の眼。それは「自分を見つめる眼」です。子どもの頃は、動物や植物、昆虫など、興味や関心はすべて自分の外の世界にあったはずで、それが徐々に外だけでなく、関心の眼は自分の内へと向かうようになります。それが「自分を見つめる眼」です。その眼を持つことで「自分は一体何者か」ということを知ることができます。では、どうすればよいのか。まず、自分の価値観や感受性が揺さぶられるような本を読むことです。心を動かされる作品を読むことで、自分はどういう人間で、何に価値を置き、どう生きたいと思っているのか、分かるようになります。たとえば、これまで小説や伝記を読んで、登場人物の生き方に感動して、「ああ、自分もこうなりたいなあ」とか、「こんなふうに生きてみたいなあ」と思ったことはありませんか。それは今の自分を見つめて、感動した人物に自分の将来像を重ねているのです。今年のNHK大河ドラマの主人公は西郷隆盛です。日本の近代化の礎を築いた西郷隆盛はどんな人物だったのでしょうか。西郷を描いた小説など、是非、読んでみてください。「自分を見つめる眼」を持つためのもう一つの方法、それは「孤独」になる時間を作ることです。「孤独」は「寂しさ」とは違います。「孤独」とは自分自身と一緒にいるということです。自分と一緒にいられない人は寂しさに耐えられません。SNSなどを使って誰かとつながろうとします。そうではなく「孤独」になって自分と向き合ってください。そして「自分は何に興味があるのか。何をしたいのか。どう生きたいのか」自分に問うてください。

次に二つめの眼。それは「他人に配る眼」です。私たちは一人で生きていくことはできません。他者を支え、支えられながら生きています。「自分さえよければ」ではなく、他者に対する想像力をもつことです。「今、この人は困っているんだろうな」とか「悩んでいるんだろうな」とか、「こういうことをされたり、言われたりしたら相手は傷つくだろうな」

など、このように日常の様々な場面で、相手の立場からも考えてみることを心がけてください。他人に配る眼は、相手への思いです。思いは見えませんが、思い遣りは目に見えます。心は見えませんが、心遣いは目に見えます。

三つめの眼。それは「社会を見る眼」です。新聞を読んだりテレビのニュースを見て、日本や世界で起こっている出来事に関心を持つということです。皆さんに質問をします。「最近のニュースで、あなたが特に興味や関心を持ったことは何ですか。」少子高齢化、人口減少、地球の温暖化、エネルギーや食糧問題、感染症の問題、国際紛争・・・私たちが生きている社会には課題が山積しています。そして、皆さんも私もその一つ一つの課題に対してはその当事者なのです。皆さんは18歳になれば選挙権を持ちます。自らの意思と責任で、長崎県や日本の将来を託す人に一票を投じる権利を得ます。その一票を有効に活用するため、自分の周りで起こっていることに関心を持ってください。そして、それは何故起こったのか、何故起こっているのかを自分の頭で考えて、自分なりの意見や考えを持つことを心がけてください。そうすれば揺るぎのない、確固たる“自分”というものが確立されていきます。

四つめの眼。それは「自分の将来を見据える眼」です。子ども時代は、その時々の一瞬一瞬を、その場その場の感情のままに生きていてよかったのです。子どもの頃、今日という日が将来につながっているということは考えも及ばないことでした。しかし、高校生になると“今”という時間が自分の未来に向かって流れていることを強く認識するようになります。皆さんにお尋ねします。「3年後、あなたはどこで何をしたいと思いますか。また10年後の自分をイメージすることはできますか。」おそらく今はまだ、ほとんどの人は首を傾げるだろうと思います。作家の角田光代さんはご自身のエッセーでこう述べています。「あれをしたい、こうなりたいと決めた時、それはもう叶い始めている。決めなければ絶対に実現することはない。決めた時点で、既に私たちは目指す場所に歩きだしている。」

「自分を見つめる眼」「他人に配る眼」「社会を見る眼」「将来を見据える眼」を持って日々を送り、そして、3年後は、「豊かな情感」と「透徹せる知性」、そして「強靱な生命力」を身にまとしてこの学び舎を巣立ってくれることを切に期待しています。

さあ、いよいよ高校生活の始まりです。まっさらな3年日記に書き記すことは、楽しいことや嬉しいことばかりではありません。時に悩んだり、迷ったり、悔しかったり、落ち込んだり、つまずくこともあります。でもそれでいいのです。つまずいたら立ち上がればいいのです。それが人生です。それが青春です。泣いたり、笑ったりしながらがむしゃらに青春の日々と格闘する皆さんに私達はしっかり寄り添い、全力で支援します。そのことを皆様にお約束して私からの式辞といたします。

平成30年4月9日

長崎県立口加高等学校長 狩野 博臣